

学校図書館を“学びの拠点”に

学校図書館を“読書場”としてだけでなく、「情報を集め、活用するための拠点」にもなるようにしていきたいと考えています。

学校図書館の3つの機能

(文部科学省HP「学校図書館ガイドライン(H28.11月)」)

- ・読書センター：物語や知識への興味・関心を広げる
- ・学習センター：教科学習と連動し、調べ学習を支援する
- ・情報センター：ICTと連携し、情報リテラシーを育む。

☆児童生徒の居場所

この機能を意識した実践を紹介します。



読書センターとして

児童が選んだ「おすすめの本コーナー」を設置。

季節や行事に合わせた「特集本展示」で関心を広げる。

絵本の読み聞かせを行う。

図書だよりを発行(新しい図書の紹介、季節の本の紹介など)



1年生が絵本の読み聞かせを聞いているようです



学習センターとして

総合的な学習の時間で、調べ学習の拠点として利用。

社会科の地域学習で地域資料・地図を活用。

国語の話す内容や書く内容について調べる。



学習に使う本をまとめて、児童が手に取りやすいようかや教室などにコーナーを作って、置くこともあります。

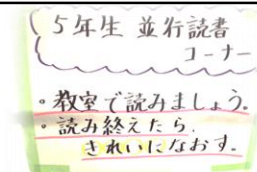
情報センターとして

1人1台端末と連動して資料を検索し、情報を収集・比較。

レポート作成時に引用・出典を明示する練習。(記録カードの活用)

AIやインターネット情報の信頼性を考える授業の場とする。

市の図書館や他の学校の図書館との中継地点として、本の貸し出しを行う。



その他

子どもの居場所として

コミュニティスクールの活動として、毎月、月末(20日以降)の朝8時から8時20分まで図書室を「ぽかぽかルーム」として開放しています。ぽかぽかルームでは、地域の方に来ていただいて、図書室の中で、本を読んだり、折り紙をしたり、昔遊びをしたり、いろいろな過ごし方をしています。

自分の好きな本を落ち着いて読んでいるようです



地域の方や保護者の方と折り紙をしたり、カードゲームをしたりしているようです

